

☆1人1台タブレットの活用☆

子どもたちに1人1台の端末が整備され4年目に入りました。児童も操作に慣れ、日常の教育活動においてICT機器を活用していきます。今年度も効果的な活用を行い、学習活動の一層の充実を図れるようにしています。プログラミング教育も継続して進めていきます。今年度も、ICT支援員の小林 ゆかり(こばやし ゆかり)先生がタブレット活用に関してサポートにあたります。



小林ゆかり先生



調べ学習に使用したり、学習したことを復習するドリルをしたりして活用しています。高学年は、Formsを使用して生活アンケートを行うこともあります。

6年生の「全国学力学習状況調査」の質問紙調査も、タブレットを使用しました。自分でQRコードを読み込んで質問に答えました。



☆楽しく充実した外国語科・外国語活動の授業☆

学習指導要領に従い5・6年生は、週2時間の外国語科、3・4年生は週1時間の外国語活動の授業を実施しています。(1・2年生も年間10時間程度外国語活動を実施していきます。)

本年度も、英語専科指導教員として西堀 浩子(にしほり ひろこ)先生、社会人活用教員として織田美樹先生、ALTのミーケ・ブランド先生が外国語科の指導にあたっています。外国の言語や文化への理解を深めること、外国語の表現に慣れ親しむこと、コミュニケーション能力の素地を養うことなどをねらいに学習していきます。指導者とともに、楽しく充実した学習にしていけるように努めてまいります。



西堀浩子先生



ミーケ・ブランド先生



織田美樹先生

☆学校図書室の充実☆

学校図書館司書として小菅香織(こすがかおり)先生が、図書室の利用方法や読書活動推進のサポートにあたります。本の紹介や新聞コーナーの設置、学習に必要な図書資料の準備など学校図書室、読書活動の充実に努めます。



小菅香織先生

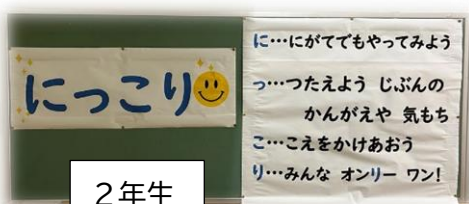
☆掲示板より☆

各学年の掲示板に、学年目標や合い言葉が掲示されています。

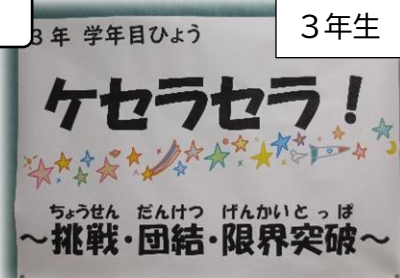
1年生



2年生



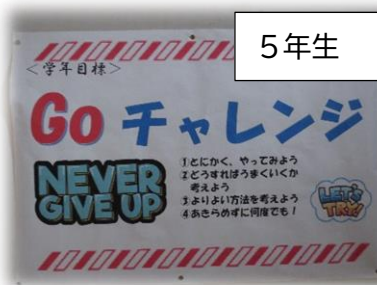
3年生



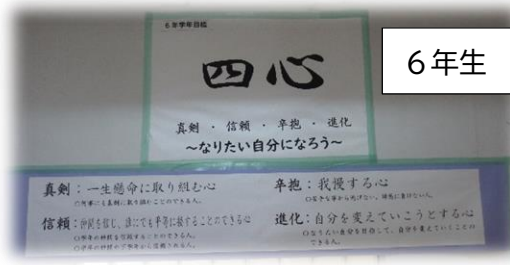
4年生



5年生



6年生



一人ひとりの学びを大切に

多賀小学校は今年度から2年間、滋賀県の「CBT データを活用した『個別最適な学び』研究調査事業」の研究指定校になっています。4、5、6年を対象に5月にタブレットで国語科・算数科の学力調査、児童質問調査を行い、一人一人の学力について調査します。それをもとに、個々に合う学習活動や、多賀小の児童が力をつけることができる授業改善などの研究を進めていきます。

滋賀県学びのステップアップ調査

子どもたち一人一人の学びの状況を的確に把握し、分析結果をもとに授業改善を進めます

主な特長

子どもたちの伸びる時期やスピードは様々ですが、一人一人は確実に成長しています。
滋賀県では、子どもたちが現在の実力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。そして、自分の力をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう、効果的な指導方法を探り、学校、市町、県が共有しながら、子どもたちを伸ばしていきたいと考えています。
本調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えていることが特長です。

概要 調査は、子どもたちがもつ1人1台端末を使用して実施します。

教科(国語、算数・数学)に関する調査

毎年の調査結果を見比べることで、1年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見ることができます。
※「学力の伸び」は本調査の2年目以降に見られます。

児童生徒質問調査

「社会のルールやマナーを守る意識」「意欲」など、子どもたちの成長に大切な力を見ることができます。



実施日 令和7年5月23日(金)5年、26日(月)4年、27日(火)6年 結果の返却 令和7年9月以降を予定

調査から授業改善の流れ

調査の実施

子どもたち一人ひとりの学びの状況を的確に把握します。

結果の分析

子どもたち一人ひとりの学力や、学校および家庭における学習の様子について、結果をもとに「よいところ」と「努力が必要なところ」などを分析します。

学力の向上

子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業を行います。

授業の改善

分析結果をもとに、校内研究に取り組み、授業改善を進めます。
○文章や図、友だちとのやりとりなどから、様々な情報を読み解き理解する力や、理解したことをもとに子どもたちが自分の考えをもつ力を高めます。
○授業において、1人1台端末を用いて意見交流やプレゼンテーションを行ったり、家庭学習でデジタルドリルに取り組んだり、効果的なICTの活用を目指します。

家庭での調査結果の活用法

「伸び」が見えると「意欲」が高まります!



調査の結果を見て、よかったところや伸びたところを褒めてあげてください。

調査の結果を見て、家庭では次のような取組を行うと効果的です。

STEP1

お子さんの「よいところ」「努力が必要なところ」を把握
調査では、学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」が分かります。結果を見て、お子さんの現在の学力を知り、「よいところ」と「努力が必要なところ」を知ることが大切です。学校の先生と話し合いながら、お子さんのよさを伸ばしていきたいよう。

STEP2

一人一人のお子さんに合った「目標の設定」
お子さんの「よいところ」「努力が必要なところ」を把握したら、それぞれのお子さんに合った目標を立てることが重要です。

STEP3

「家庭学習の習慣化」
目標に向けて、学力を伸ばしていくためには、家庭学習を習慣化していくことが必要です。家庭学習の内容について、まずは学校の授業の予習・復習を中心に行うことをお勧めします。調査結果から「学力の伸び」を見て、学習の成果を確認しましょう。